

Hitachi Content Platform

Hitachi Adapter for Symantec Enterprise
Vault ユーザーズガイド

対象製品

Hitachi Adapter for Symantec Enterprise Vault
01.1.11 以降

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Lotus Domino は、IBM Corporation の登録商標です。

Symantec, および Enterprise Vault は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、および商品名は各社の商標、または登録商標です。

発行

2012 年 10 月（第 4 版）K6603752

著作権

(C)2011, 2012, Hitachi, Ltd. All rights reserved.

(C)2011, 2012, Hitachi Data Systems Corporation. All rights reserved.

目次

はじめに.....	9
対象読者.....	10
マニュアルの構成.....	10
マニュアル体系.....	10
このマニュアルでの表記.....	11
このマニュアルで使用する記号.....	11
KB（キロバイト）などの単位表記について.....	11
カスタマーサービスとサポート.....	11
リモート保守.....	11
1. HCP 連携時の Enterprise Vault の概要.....	13
1.1 HCP 連携時の Enterprise Vault.....	14
2. HASEV のインストールとセットアップ.....	15
2.1 HASEV のセットアップの前提条件.....	16
2.2 HASEV をインストールする.....	16
2.3 HASEV をセットアップする.....	19
3. HCP 連携時に必要な Enterprise Vault の設定.....	21
3.1 HASEV の設定.....	22
3.2 HCP で新しいテナントを作成する.....	22
3.3 HCP で新しい名前空間を作成する.....	23
3.4 Enterprise Vault でポルトストアグループおよびポルトストアを作成する.....	24
4. トラブルシュート.....	31
4.1 ログオンに失敗した.....	32
4.2 アクセスが拒否された.....	32
4.3 パラメータが正しくない.....	33
4.4 コマンドが認識されない.....	33
4.5 ネットワークの場所が見つからない.....	34
4.6 HCP へのアーカイブまたはリコール処理が失敗した.....	34
付録 A Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値.....	37
A.1 上限値一覧.....	38

付録 B 略語一覧.....	39
B.1 このマニュアルで使用している略語.....	40

目次

図 2-1 [HASEV Setup Wizard] 画面.....	17
図 2-2 [Select Installation Folder] 画面.....	18
図 2-3 [Confirm Installation] 画面.....	18
図 2-4 [Installation Complete] 画面.....	19
図 2-5 [Service Properties] 画面.....	20
図 3-1 [New Partition] 画面 (ストレージの選択)	24
図 3-2 [New Partition] 画面 (HCP の接続設定)	25
図 3-3 確認メッセージ.....	25
図 3-4 [New Partition] 画面 (HCP のストレージ設定)	26
図 3-5 [New Partition] 画面 (接続テスト)	27
図 3-6 [New Partition] 画面 (パーティションロールオーバー構成)	27
図 3-7 [New Partition] 画面 (スキャン頻度)	28
図 3-8 [New Partition] 画面 (設定確認)	29
図 4-1 ログオンに失敗した場合のエラーメッセージ.....	32
図 4-2 アクセスが拒否された場合のエラーメッセージ.....	33
図 4-3 パラメータが正しくない場合のエラーメッセージ.....	33
図 4-4 コマンドが認識されない場合のエラーメッセージ.....	34
図 4-5 ネットワークの場所が見つからない場合のエラーメッセージ.....	34



表目次

表 A-1 Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値.....	38
---	----



はじめに

このマニュアルは、Hitachi Adapter for Symantec Enterprise Vault (HASEV) を使用して、Symantec Enterprise Vault (Enterprise Vault) と Hitachi Content Platform (HCP) を連携した運用を開始するための設定手順について説明しています。

- 対象読者
- マニュアルの構成
- マニュアル体系
- このマニュアルでの表記
- このマニュアルで使用する記号
- KB (キロバイト) などの単位表記について
- カスタマーサービスとサポート
- リモート保守

対象読者

このマニュアルは、次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- Enterprise Vault 管理者
Enterprise Vault のシステム全体に影響するパラメータの管理を行います。
- HCP システムレベル管理者
HCP システム全体に影響するパラメータの管理を行います。
- テナントレベル管理者
HCP システム内にある HCP テナントごとに存在し、その HCP テナントに関する設定の管理を行います。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

章	内容
1. HCP 連携時の Enterprise Vault の概要	HASEV を使用して HCP と連携した、Enterprise Vault の特長について説明しています。
2. HASEV のインストールとセットアップ	HASEV をインストールするための前提条件、HASEV のインストール手順、および HASEV のセットアップ手順について説明しています。
3. HCP 連携時に必要な Enterprise Vault の設定	Enterprise Vault と HCP を連携した運用を開始するまでに必要な設定の手順を説明しています。
4. トラブルシューティング	Enterprise Vault が HCP と接続していることを確認するための接続テストを実施した際に、障害が発生した場合の対応について説明しています。
A. Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値	Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値について説明しています。
略語一覧	このマニュアルで使用している略語を示しています。

マニュアル体系

Enterprise Vault と連携するときに設定する HCP の項目については、マニュアル「Hitachi Content Platform 運用ガイド」をお読みください。

参考マニュアルには Enterprise Vault と連携する際には使用しない機能や設定項目も記載されているため、必ず「Hitachi Content Platform Hitachi Adapter for Symantec Enterprise Vault ユーザーズガイド (このマニュアル)」に記載されている指示に従って、参照してください。

マニュアル名	内容
Hitachi Content Platform 運用ガイド	HCP と Enterprise Vault を連携して運用を開始するための設定手順、および障害発生時の対応について説明しています。
Hitachi Content Platform HVFP 連携セットアップガイド	HCP と HVFP を連携して運用を開始するための設定手順および障害発生時の対応について説明しています。HCP と HVFP を連携するために、最初にお読みいただくマニュアルです。

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品の名称を省略して表記しています。このマニュアルでの表記と、製品の正式名称または意味を次の表に示します。

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
Enterprise Vault	Symantec Enterprise Vault
HASEV	Hitachi Adapter for Symantec Enterprise Vault
HCP	Hitachi Content Platform

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[]	ボタン、キーボードのキーなどを示します。 (例) [システム設定] ページ [OK] ボタン [Enter] キー

KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）、1PB（ペタバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイト、1,024⁵ バイトです。

カスタマーサービスとサポート

弊社では、購入後のサポートサービスを提供しています。サポートサービスに関する詳細は、お問い合わせ先まで連絡してください。

ただし、Enterprise Vault で発生した問題については Enterprise Vault のサポート元へ連絡してください。

リモート保守

HCP のソフトウェアに問題が発生した場合、リモート保守で問題を解決できます。リモート保守では、開発者がインターネット経由でお客様の HCP に接続して、調査および回復作業を実施します。リモート保守の詳細については「Hitachi Content Platform リモート保守適用のお願い」を参照してください。

HCP 連携時の Enterprise Vault の概要

この章では、HASEV を使用して HCP と連携した、Enterprise Vault の特長について説明しています。

□ 1.1 HCP 連携時の Enterprise Vault

1.1 HCP 連携時の Enterprise Vault

Enterprise Vault はソフトウェアベースのインテリジェントなアーカイブプラットフォームとして、電子メールシステム、ファイルサーバ環境、インスタントメッセージプラットフォーム、およびコンテンツ管理コラボレーションシステムを保管・管理します。ユーザは、これらの中から企業データを見つけ出すことができます。また、Enterprise Vault は HCP と共に使用すると、オープンで拡張性のあるインテリジェントアーカイブになります。データを保存し保護するだけでなく、ストレージの資本コストと継続的な管理コストが大幅に削減されます。

さらに Enterprise Vault は、Hitachi Adapter API インターフェースを使用することで、HCP の機能の利点を活用できます。REST ベースの拡張インターフェース経由で HCP と通信し、認証された安全なネームスペースにデータを格納し、またデータのリモート HCP へのレプリケーションが正常に実行されたことを検証できます。

HASEV のインストールとセットアップ

この章では、HASEV をインストールするための前提条件、HASEV のインストール手順、および HASEV のセットアップ手順について説明します。

- [2.1 HASEV のセットアップの前提条件](#)
- [2.2 HASEV をインストールする](#)
- [2.3 HASEV をセットアップする](#)

2.1 HASEV のセットアップの前提条件

HASEV をインストールする前に、次の製品がインストールされていることを確認してください。

- Enterprise Vault
対象のバージョンを次に示します。
 - バージョン 9 (SP2 または SP3)
 - バージョン 10
- HCP
バージョン 4.0 以降が対象です。

セットアップの前に次の作業を実施します。

- Enterprise Vault をインストールして、新しいボルトストアパーティションを作成できるようにする。
- HCP をインストールして、次の作業を実施する。
 - HCP DNS をデータセンタ DNS に組み込む。
 - Enterprise Vault の [HCP Partition] ウィザードを使用する前に、ボルトストアパーティション用の HCP のテナントおよびネームスペースを作成する。
 - Enterprise Vault の [HCP Partition] ウィザードを使用する前に、HCP のネームスペースのデータへアクセスするためのユーザーアカウント名およびパスワードを作成する。
- HCP と Enterprise Vault の時刻が同じ NTP サーバに同期するように設定する。
- HASEV を各 Enterprise Vault サーバにインストールする。
- HCP を使用するボルトストアの I/O を停止する必要があるため、該当するアーカイブ対象への I/O を停止する。

HASEV と Enterprise Vault の両方をアップグレードする場合、HASEV のインストールが完了したあとで、Enterprise Vault をインストールしてください。

2.2 HASEV をインストールする

HASEV をインストールする手順を説明します。

1. Enterprise Vault サーバ上の Enterprise Vault Storage Service を停止します。
2. Enterprise Vault サーバ上の HASEV をアップグレードする場合は、Windows の [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] からアンインストールします。
3. 添付の CD に格納されている Install.msi を実行します。Install.msi の格納先は、Enterprise Vault が Domino Server と連携しているかどうかで異なります。

Enterprise Vault と Domino Server を連携している場合

< CD のマウントドライブ > ¥Lotus Domino¥Install.msi

Enterprise Vault と Domino Server を連携していない場合

< CD のマウントドライブ > ¥General¥Install.msi

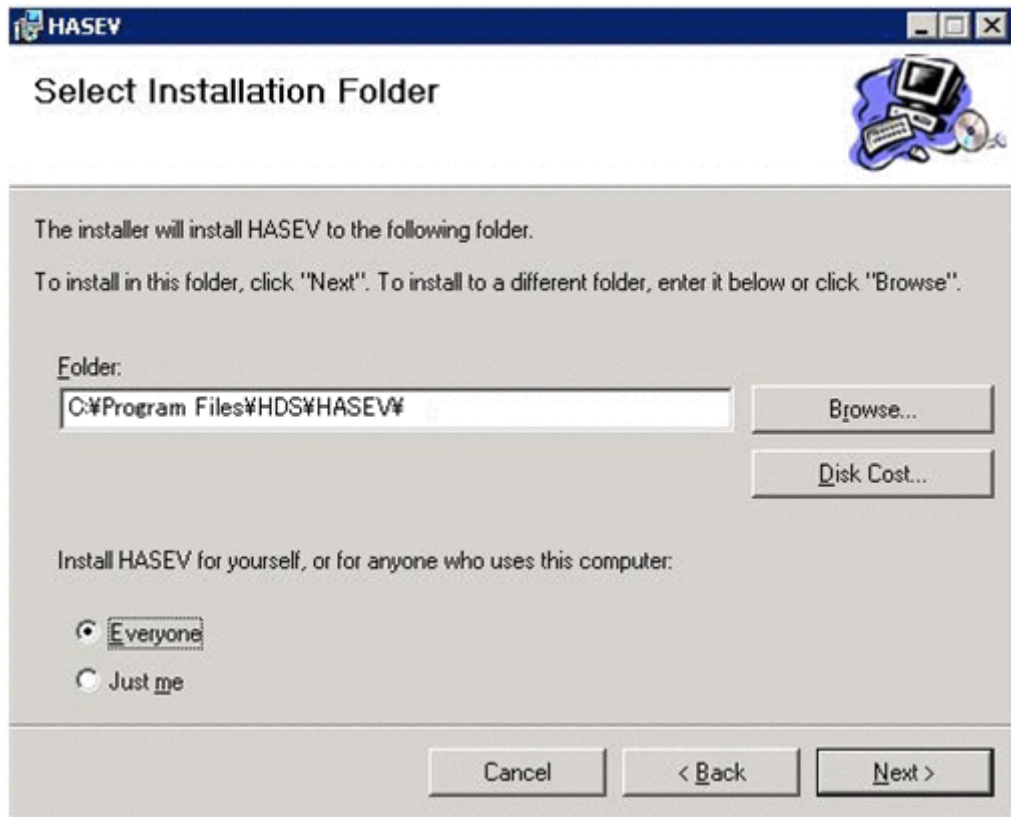
4. [HASEV Setup Wizard] 画面で、[Next] ボタンをクリックします。

図 2-1 [HASEV Setup Wizard] 画面



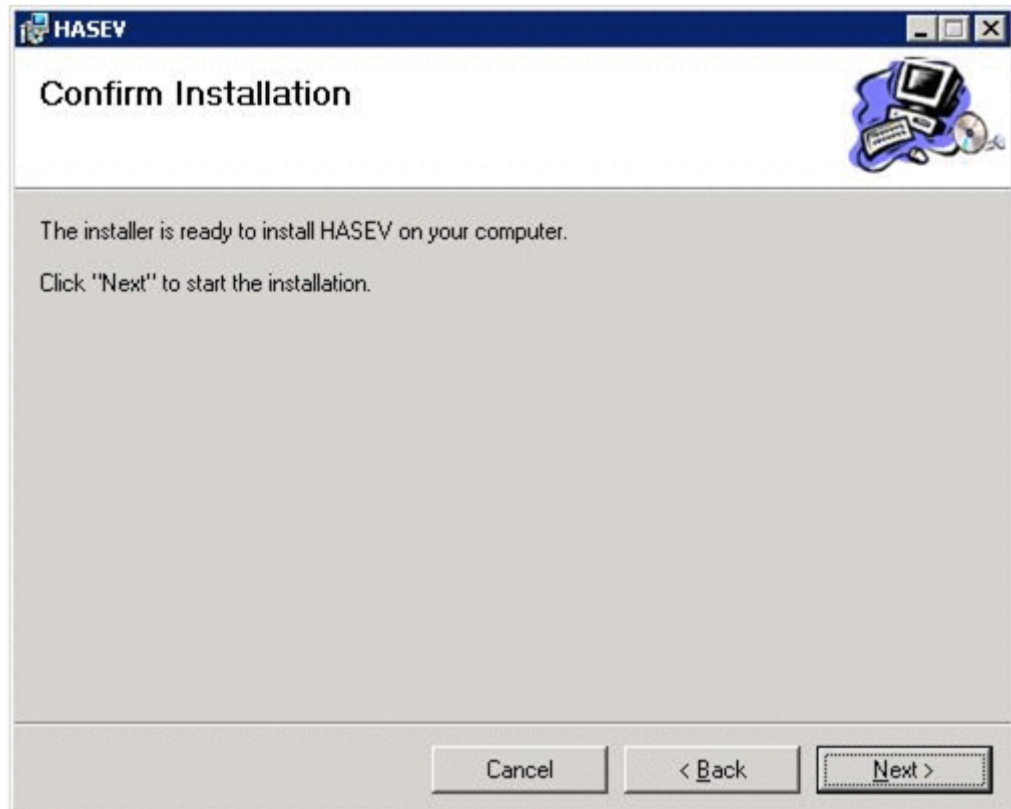
5. [Select Installation Folder] 画面で、フィーチャパックのインストール先を指定します。デフォルトフォルダにインストールするか、[Browse] ボタンをクリックしてインストールするフォルダを指定します。

図 2-2 [Select Installation Folder] 画面



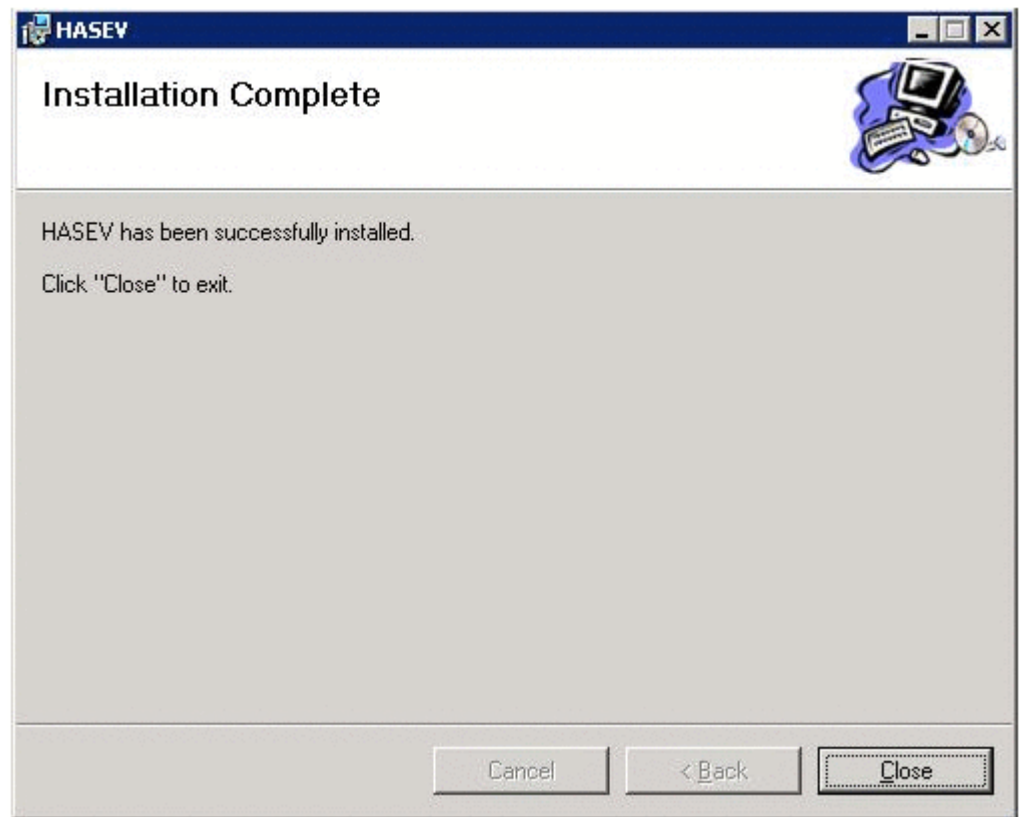
6. [Next] ボタンをクリックします。
7. [Confirm Installation] 画面で [Next] ボタンをクリックして、インストールを開始します。

図 2-3 [Confirm Installation] 画面



8. インストールが完了したら [Close] ボタンをクリックします。

図 2-4 [Installation Complete] 画面



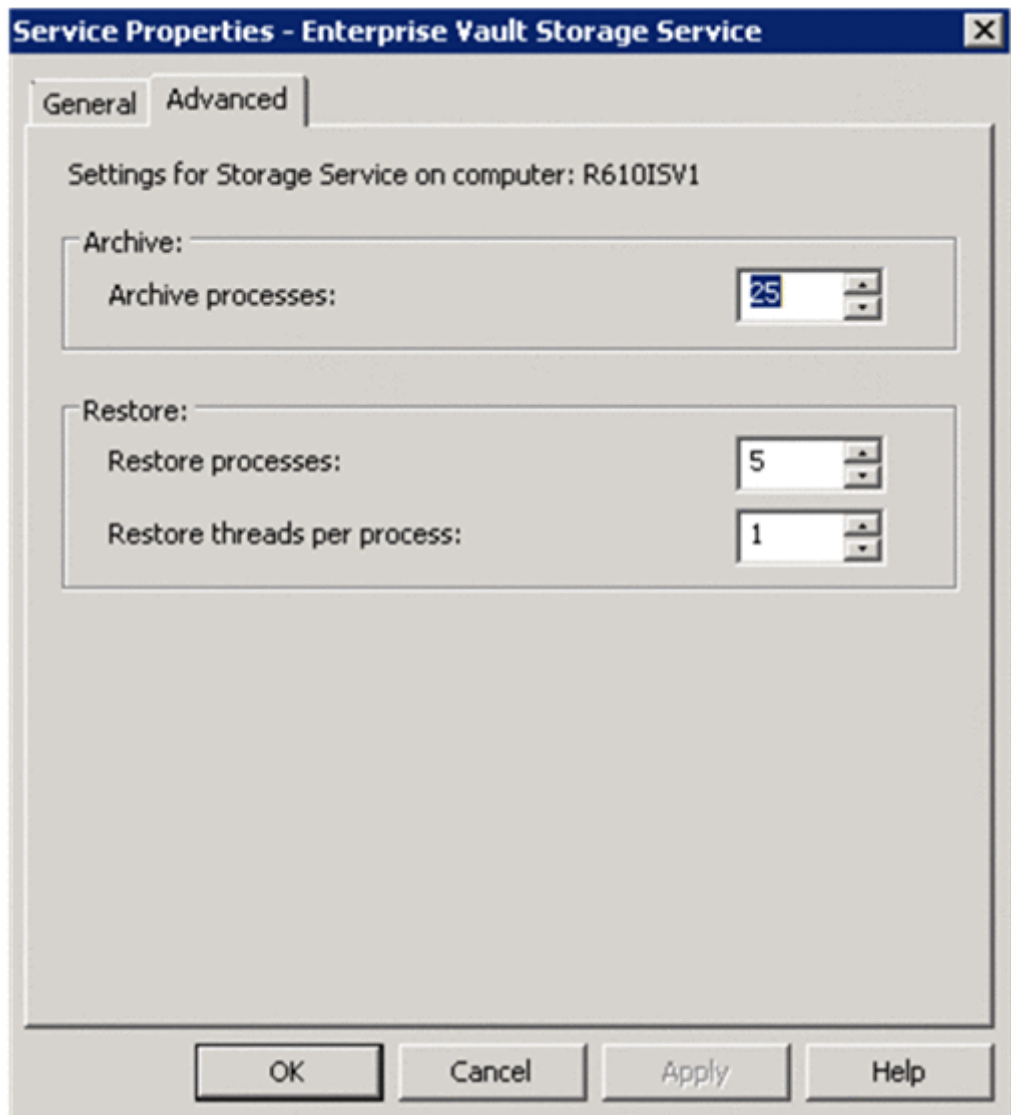
9. Enterprise Vault サーバ上の Enterprise Vault Storage Service を起動します。

2.3 HASEV をセットアップする

HASEV をセットアップする手順を説明します。

1. Enterprise Vault のコンソールで、コンソールルートツリーの [Enterprise Vault Services] を展開して、[Services] をダブルクリックします。
2. メインウィンドウで [Enterprise Vault Storage Service] をダブルクリックします。
3. [Service Properties] 画面で [Advanced] タブをクリックします。

図 2-5 [Service Properties] 画面



必要に応じて、次の項目を指定します。

- [Archive processes] の値を調整して（最大 25）、アーカイブのパフォーマンスを向上させます。
 - [Restore] 値を調整します。
4. [OK] ボタンをクリックして、ウィンドウを終了します。

HCP 連携時に必要な Enterprise Vault の設定

この章では、Enterprise Vault と HCP を連携した運用を開始するまでに必要な設定の手順を説明します。

- 3.1 HASEV の設定
- 3.2 HCP で新しいテナントを作成する
- 3.3 HCP で新しいネームスペースを作成する
- 3.4 Enterprise Vault でボルトストアグループおよびボルトストアを作成する

3.1 HASEV の設定

HCP は、相互にピアになる複数のテナントを所有し、各テナントでは複数のネームスペースを所有します。各テナントにはテナント自体のディスクが割り当てられ、テナントの各ネームスペースはテナントに割り当てられたディスクを共有できます。

複数のボルトストアパーティションは、各パーティションのルートフォルダパスが一意である場合、同じネームスペースを共有できます。**Enterprise Vault** サーバが複数ある場合、各サーバは同じテナントを共有できますが、各サーバには専用のネームスペースが必要です。

必要なボルトストアパーティションをすべて、一意のルートフォルダパス内で同じネームスペースを共有するように作成することをお勧めします。

3.2 HCP で新しいテナントを作成する

HCP で新しいテナントを作成する手順を説明します。システム管理コンソールの設定項目の詳細については、マニュアル「Hitachi Content Platform 運用ガイド」の「3.1 テナントを管理する」を参照してください。

1. HCP のシステム管理コンソールのメニューから、[Tenants] を選択します。
[Tenants] ページが表示されます。
2. [Tenants] ページで、[Create Tenant] をクリックします。
[Create Tenant] パネルが表示されます。
3. [Create Tenant] パネルで、次の内容を設定します。次の内容以外はデフォルトのままとしてください。
 - [Tenant Name] に、テナント名を指定してください。
 - [Username] フィールドに、テナントレベル管理者のユーザアカウントのユーザ名を UTF-8 の小文字で指定してください。
 - [Password] フィールドに、テナントレベル管理者のユーザアカウントのパスワードを UTF-8 の小文字で指定してください。
 - [Confirm Password] フィールドに、テナントレベル管理者のユーザアカウントのパスワードをもう一度指定してください。
 - [Hard Quota] フィールドに、テナントが利用するストレージの容量を指定してください。
 - [Namespace Quota] フィールドに、HCP にアクセスする Enterprise Vault サーバの数を指定してください。HCP にアクセスする Enterprise Vault サーバの数を無制限とする場合は [No quota] をチェックします。
 - [Retention Mode Selection] オプションのチェックボックスのチェックを外して、ネームスペースの作成時に保管モードを選択できないようにしてください。
 - [Versioning] オプションのチェックボックスのチェックを外して、バージョン管理を無効にしてください。
 - [Search] オプションのチェックボックスのチェックを外して、検索機能を無効にしてください。
 - [Service Plan Selection] オプションのチェックボックスのチェックを外して、サービスプランを無効にしてください。
 - レプリケーション機能を使用している場合は [Replication] をチェックします。また、[Soft Quota] フィールドの値が、85%となっていることを確認してください。
4. [Create Tenant] ボタンをクリックします。

テナントが作成されます。

3.3 HCP で新しいネームスペースを作成する

HCP で新しいネームスペースを作成する手順を説明します。テナント管理コンソールの設定項目の詳細については、マニュアル「Hitachi Content Platform 運用ガイド」の「3.2 ネームスペースを管理する」および「3.3.2 テナントのユーザアカウントにデータアクセス権限を設定する」を参照してください。

1. テナント管理コンソールにログインします。
2. テナントレベル管理者が新しいネームスペースを作成するためには、ロールの設定が必要です。[Security] タブを選択してから [Users] をクリックします。
3. ロールを設定するユーザを一覧から選択してクリックします。
4. [Roles] の [Compliance] および [Administrator] をチェックします。
5. [Update User Account] ボタンをクリックして、ロールを設定します。ここで割り当てたロールは直後に有効になり、メニューの選択に反映されます。
6. [Namespaces] タブを選択して、[Create Namespace] をクリックします。
次の内容を設定します。次の内容以外はデフォルトのままとしてください。
 - [Namespace Name] フィールドに、新しいネームスペースの名前を UTF-8 の小文字で指定してください。
 - [DPL] フィールドで、[1] または [2] を指定してください。
 - [Hard Quota] フィールドに、ネームスペースに割り当てるストレージの容量を指定してください。また、次の内容を確認してください。
 - [Hash Algorithm] フィールドで、[SHA-256] が選択されていること
 - [Soft Quota] フィールドの値が、85%となっていること
7. [Create Namespace] ボタンをクリックします。
8. [Security] タブを選択してから [Users] をクリックします。
9. アクセス権限を設定するユーザを一覧から選択してクリックします。
10. [Assign Namespace Permissions] をクリックし [Select All] をクリックします。
一覧に表示されたネームスペースに対してすべてのアクセス権限を有効にするようにチェックを入れます。
11. [Assign Namespaces] をクリックします。

注意

ネームスペースの保管期間設定はデフォルト ([Deletion Allowed]) から変更しないでください。

12. パフォーマンスを向上させるには、テナント管理コンソールの [Namespaces] タブの [Protocols] パネルで、[Enable HTTP] をチェックします。

注意

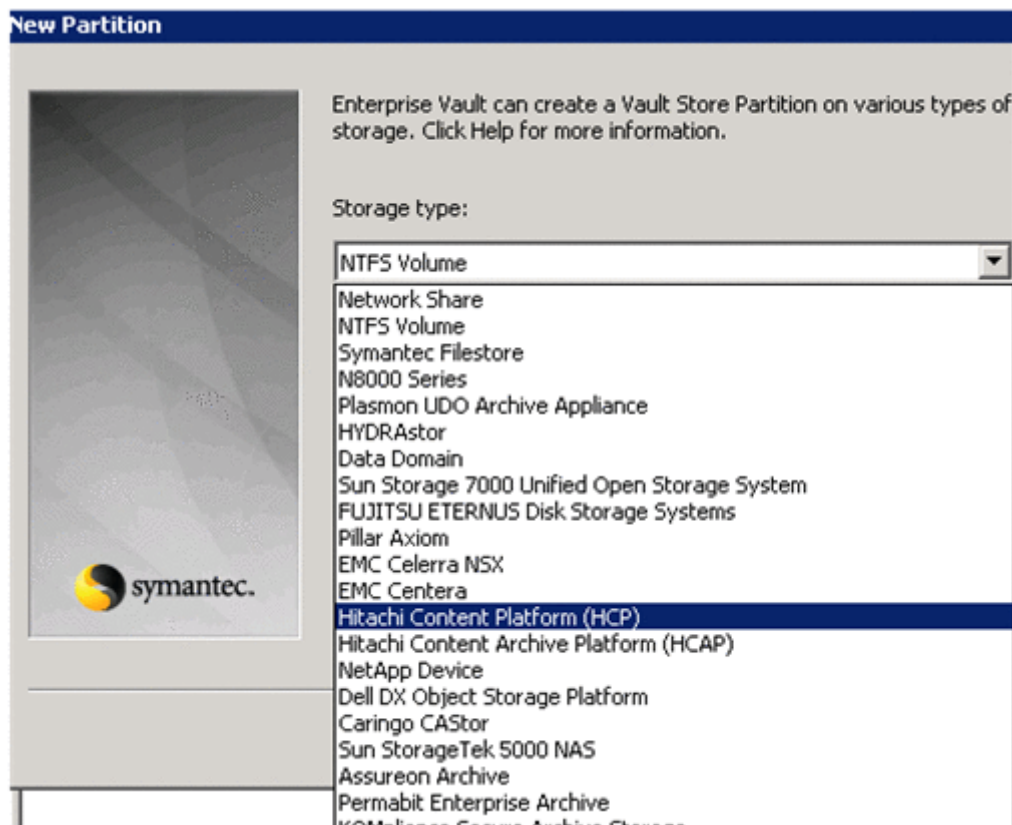
HTTP プロトコルの使用は、悪意あるモニタリングに対して保護されているネットワーク上に限定する必要があります。

3.4 Enterprise Vault でボルトストアグループおよびボルトストアを作成する

Enterprise Vault でボルトストアグループおよびボルトストアを作成する手順を説明します。

1. ボルトストアパーティションを、Enterprise Vault 内の既存または新規のボルトストアグループ・ボルトストアに作成します。
2. 選択したボルトストアを右クリックして、[New Partition] を選択します。Symantec の [New Partition] 画面で、ドロップダウンメニューから [Hitachi Content Platform (HCP)] を選択します。

図 3-1 [New Partition] 画面 (ストレージの選択)

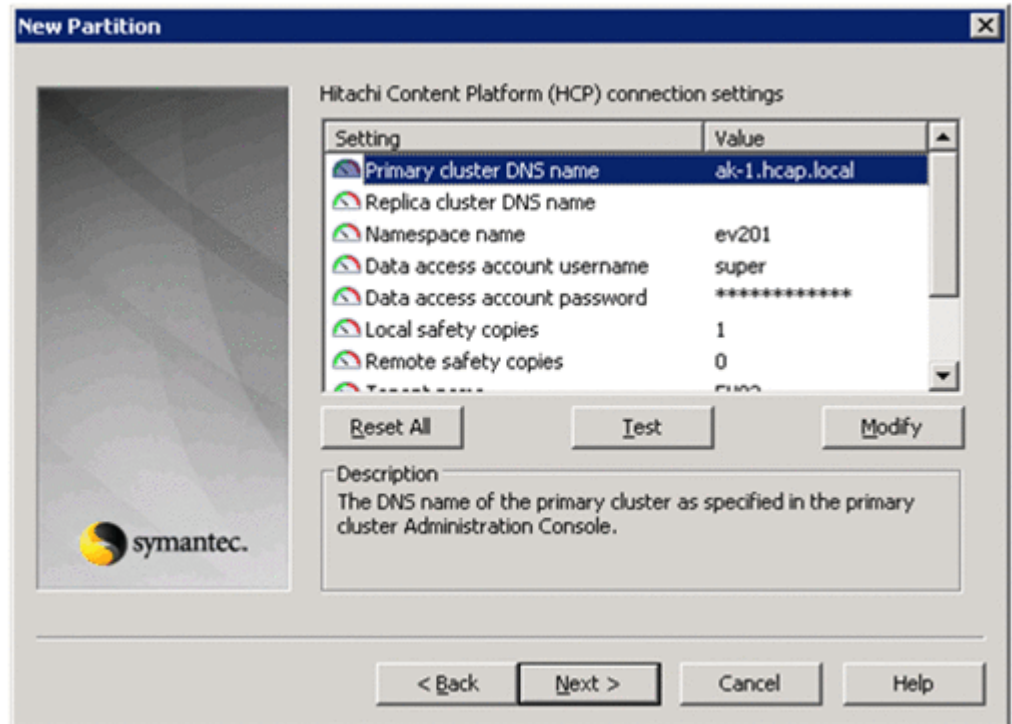


注意

CIFS プロトコルを使用してデフォルトのネームスペースに HCP のパーティションを作成する場合以外は、[Hitachi Content Archive Platform (HCAP)] は選択しないでください。

3. [New Partition] 画面 (HCP の接続設定) で DNS、テナント、ネームスペース、およびアカウントユーザの情報を指定します。

図 3-2 [New Partition] 画面 (HCP の接続設定)



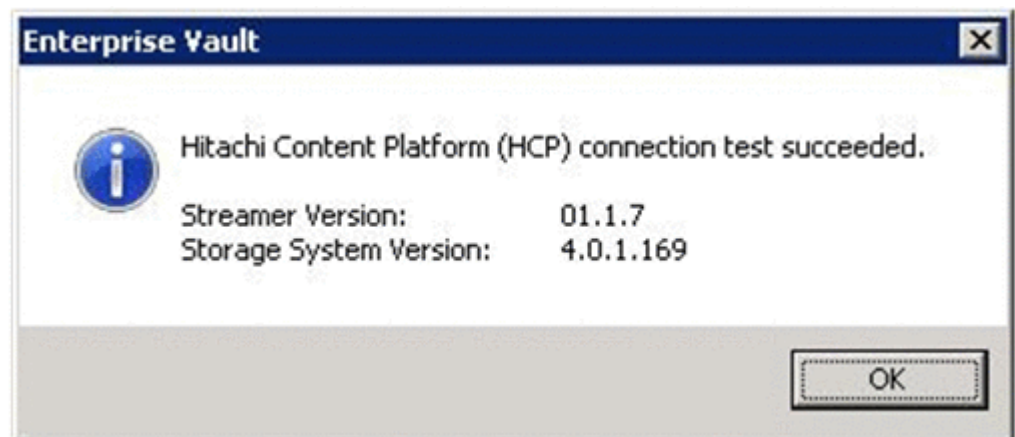
- [Local Safety Copies] に、Enterprise Vault がアクセスするローカルネームスペースの DPL の値を指定します。
- [Remote Safety Copies] に、Enterprise Vault がアクセスするレプリカ側ネームスペースの DPL の値を指定します。リモート HCP がない場合は「0」を指定します。
- レプリカがない場合、[Replica Cluster Name] は空白のままにします。レプリカは、必要な場合はあとで構成できます。

注意

Enterprise Vault のインストール時に日本語を選択した場合、[Local Safety Copies] は [Enterprise Vault で安全なストリームとして...] と表示されます。

4. 設定を確認して [Test] ボタンをクリックします。
5. 確認メッセージで [OK] ボタンをクリックして、[New Partition] 画面 (HCP の接続設定) に戻ります。

図 3-3 確認メッセージ



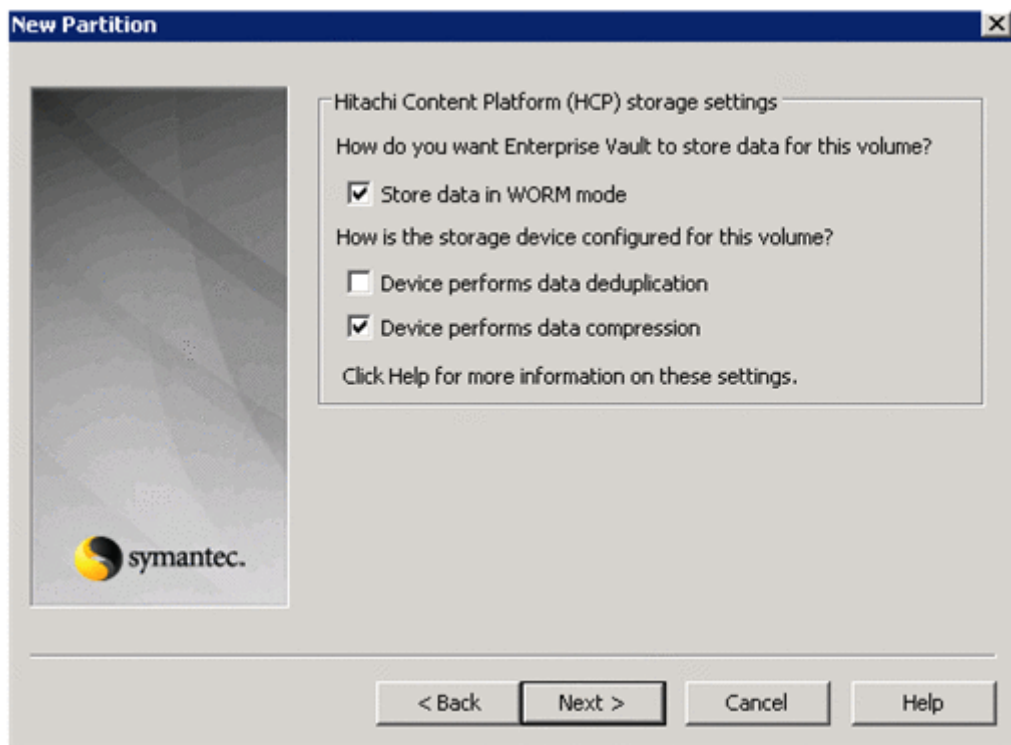
[Streamer Version] は HASEV のバージョン, [Storage System Version] は HCP のバージョンを意味します。

注意

接続テストでエラーが発生した場合は、「4. トラブルシューティング」を参照して対応してください。

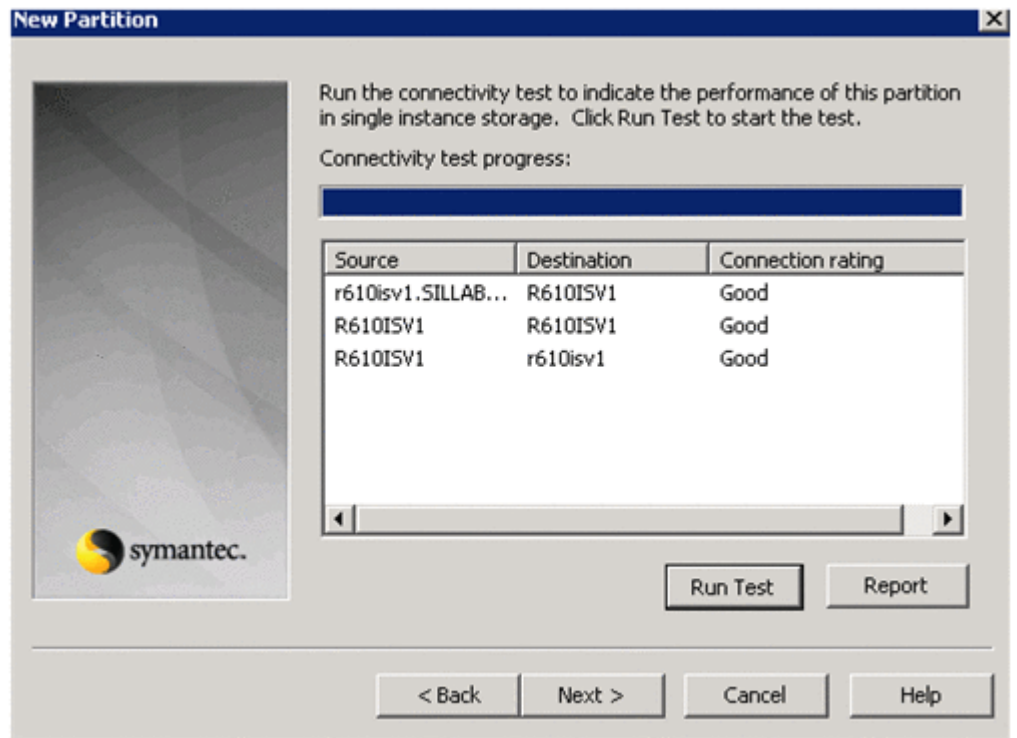
6. [New Partition] 画面 (HCP の接続設定) で [Next] ボタンをクリックします。
7. [New Partition] 画面 (HCP のストレージ設定) で、必要な情報を指定します。

図 3-4 [New Partition] 画面 (HCP のストレージ設定)



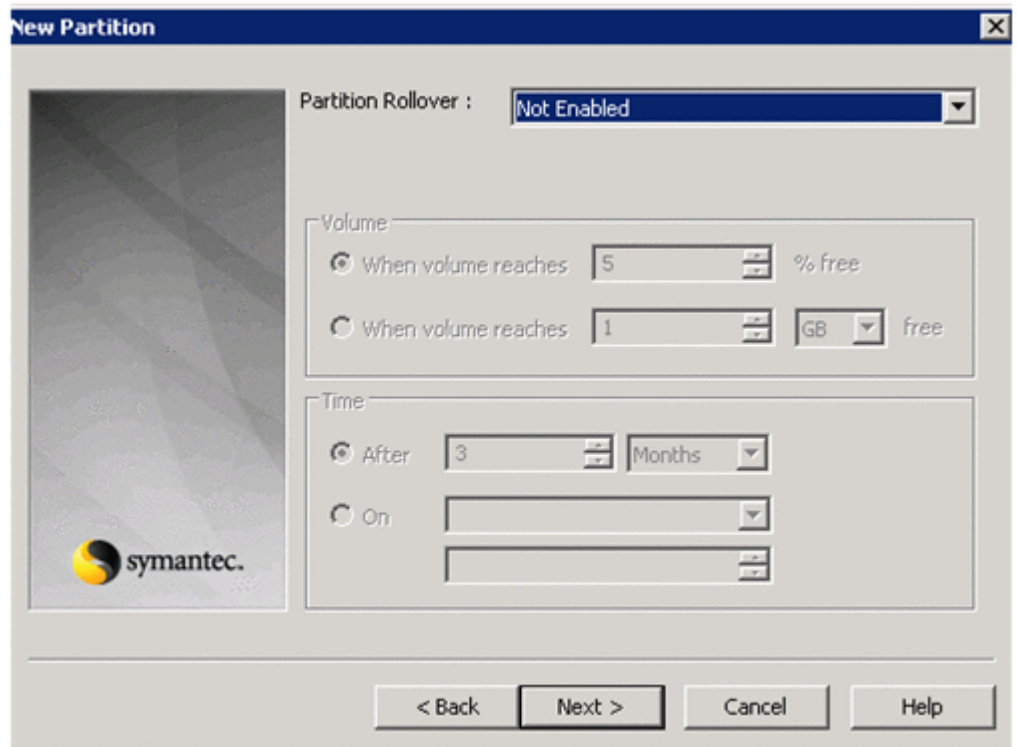
- 保管期間の値について Enterprise Vault と HCP の同期を取る場合は、[Store data in WORM mode] をチェックします。チェックした場合は、Enterprise Vault で一度設定した [Retention Period] の値を短くしないでください。
 - 保管期間の値について Enterprise Vault と HCP の同期を取らない場合は、[Store data in WORM mode] のチェックを外します。
 - [Device performs data deduplication] のチェックを外します。チェックした場合、Enterprise Vault は HCP の重複排除機能に適合しないフォーマットでデータを HCP に送ります。
 - [Device performs data compression] をチェックします。チェックしない場合、Enterprise Vault はデータの圧縮をクライアント側で実行します。
8. [Next] ボタンをクリックします。
 9. [New Partition] 画面 (接続テスト) で [Run Test] ボタンをクリックして、すべての Enterprise Vault サーバコンポーネントが SQL サーバと適切に接続されることを確認します。

図 3-5 [New Partition] 画面 (接続テスト)



10. [Next] ボタンをクリックします。
11. [New Partition] 画面 (パーティションロールオーバー構成) で, [Next] ボタンをクリックします。

図 3-6 [New Partition] 画面 (パーティションロールオーバー構成)

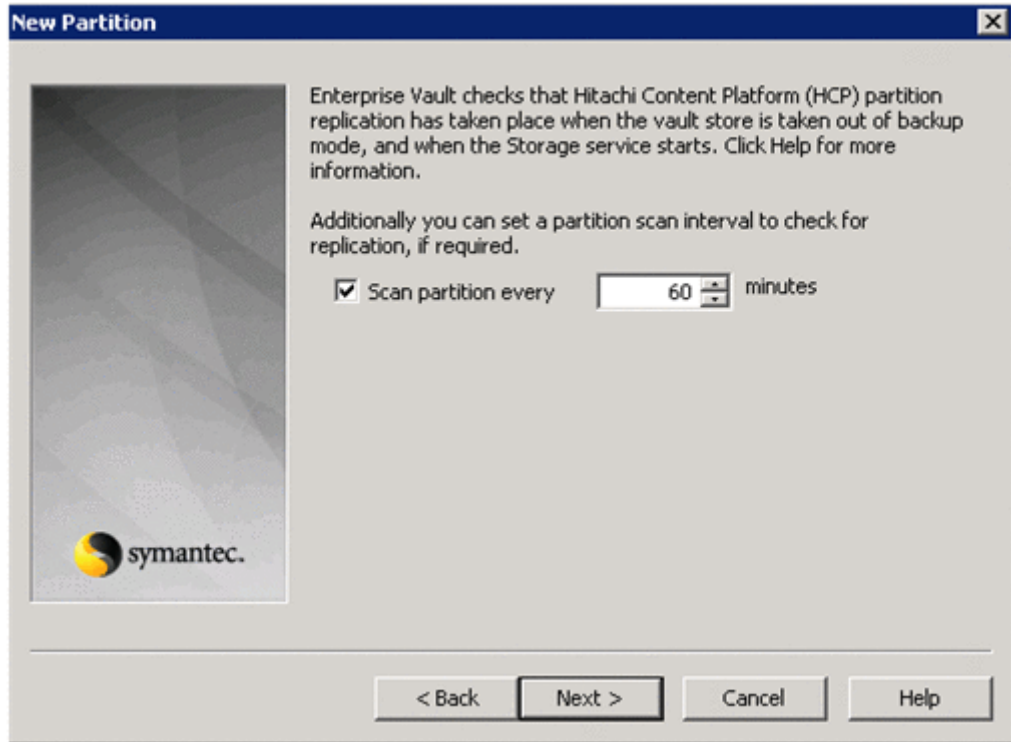


注意

この設定はオプションです。デフォルトでは [Not Enabled] (無効) になります。

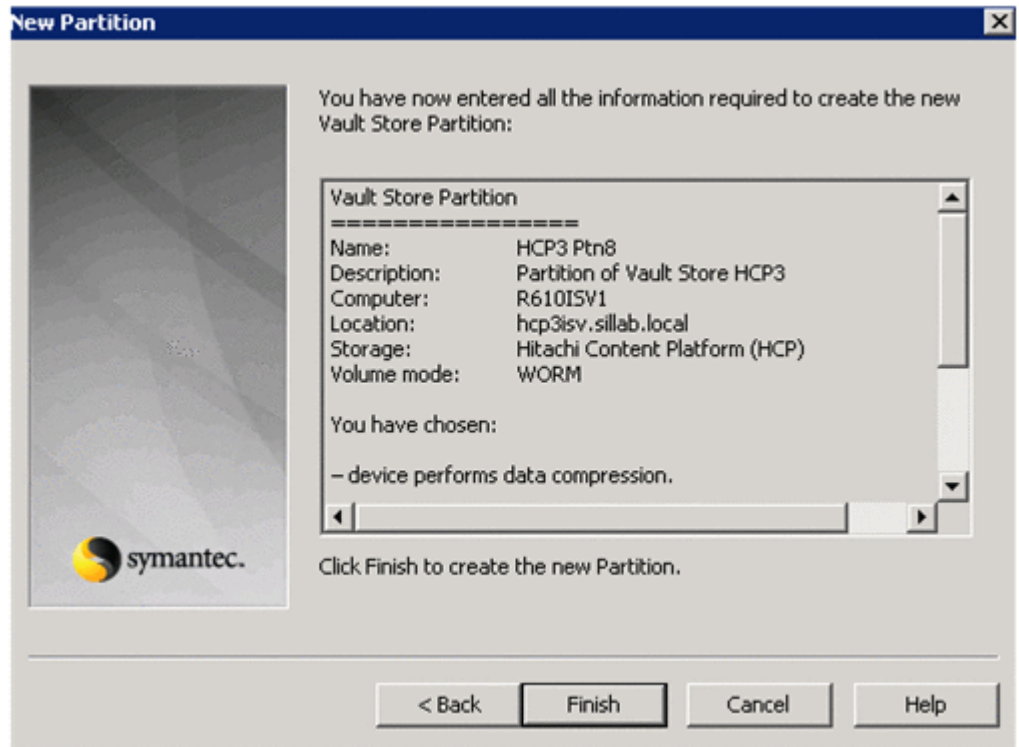
12. [New Partition] 画面 (スキャン頻度) で, 必要に応じてスキャンの頻度を調整します。

図 3-7 [New Partition] 画面 (スキャン頻度)



13. [Next] ボタンをクリックします。
14. [New Partition] 画面 (設定確認) で新しいボルトストアパーティションの設定内容を確認し, 正しければ [Finish] ボタンをクリックして, 新しいパーティションを作成します。正しくない項目があれば, [Back] ボタンをクリックして設定を変更するか, [Cancel] ボタンをクリックして処理を終了します。

図 3-8 [New Partition] 画面 (設定確認)



トラブルシューティング

この章では、Enterprise Vault が HCP と接続していることを確認するための接続テストを実施した際に障害が発生した場合と、HCP へのアーカイブまたはリコール処理が失敗した場合の対応について説明します。

- 4.1 ログオンに失敗した
- 4.2 アクセスが拒否された
- 4.3 パラメータが正しくない
- 4.4 コマンドが認識されない
- 4.5 ネットワークの場所が見つからない
- 4.6 HCP へのアーカイブまたはリコール処理が失敗した

4.1 ログオンに失敗した

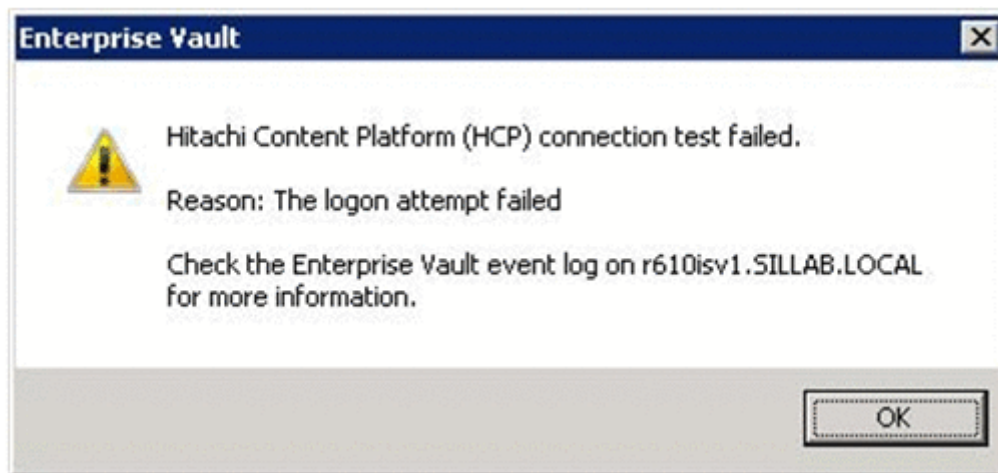
ログオンに失敗すると、接続テストでエラーとなります。ログオンの失敗は、次のどれかが正しくない場合に起こります。

- テナント名
- ネームスペースのユーザー名 (データアクセス用のアカウント)
- ネームスペースのパスワード (データアクセス用のアカウントのパスワード)

DNS 名に入力できる値は、プライマリまたはレプリカの HCP システムのドメイン名だけです。テナント名、ネームスペース名を含めた場合は、ログオンエラーになります。

詳細については、Enterprise Vault のイベントログを確認してください。

図 4-1 ログオンに失敗した場合のエラーメッセージ



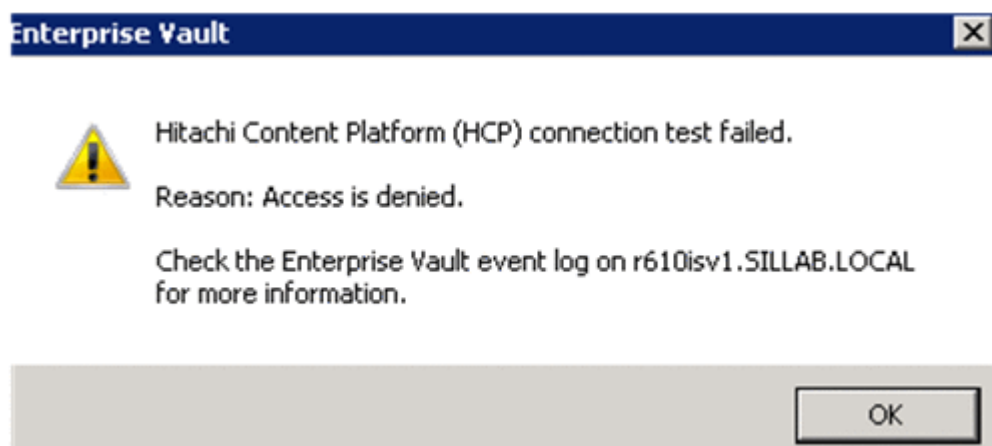
4.2 アクセスが拒否された

アクセスに失敗すると、接続テストでエラーとなります。アクセスの失敗は次の状況で発生します。

- テナント名に大文字が使用されている。
- ネームスペース名に大文字が使用されている。
- 選択したプロトコルが有効になっていない。
- ネームスペースの保管期間にデフォルト ([Deletion Allowed]) 以外の値を指定した。

詳細については、Enterprise Vault のイベントログを確認してください。

図 4-2 アクセスが拒否された場合のエラーメッセージ



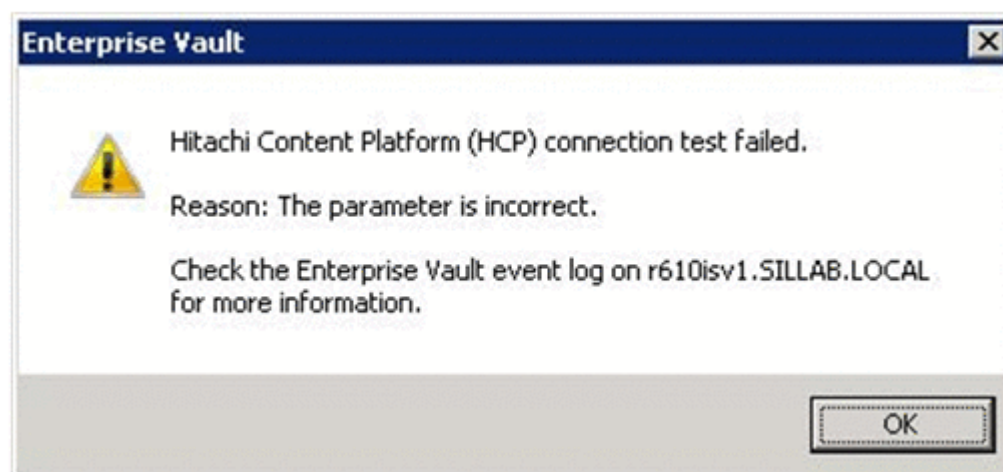
4.3 パラメータが正しくない

パラメータが正しくない場合、接続テストでエラーとなります。パラメータによる障害は次の状況で発生します。

- レプリカがない場合に、[Remote Safety Copies] にゼロ以外の値を指定した。

詳細については、Enterprise Vault のイベントを確認してください。

図 4-3 パラメータが正しくない場合のエラーメッセージ



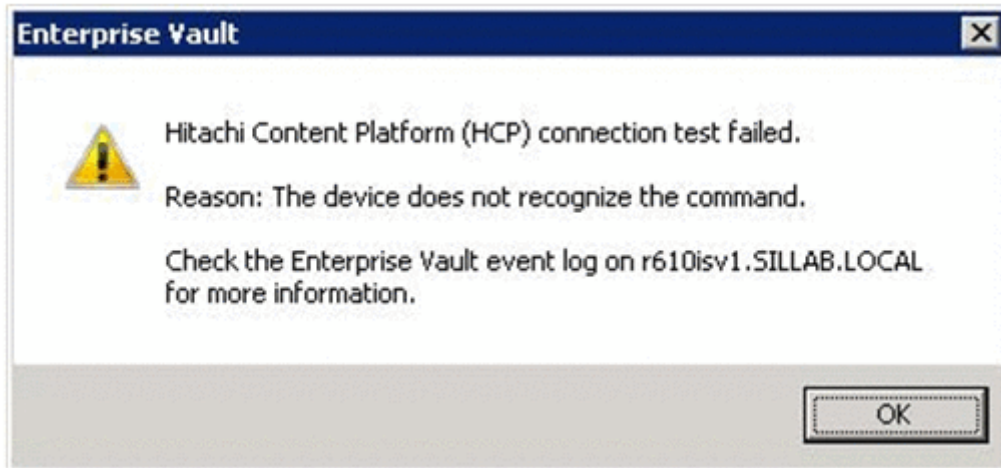
4.4 コマンドが認識されない

コマンドが認識されない場合、接続テストでエラーとなります。エラーは次の状況で発生します。

- ネームスペース名が正しくない。

詳細については、Enterprise Vault のイベントログを確認してください。

図 4-4 コマンドが認識されない場合のエラーメッセージ



4.5 ネットワークの場所が見つからない

ネットワークの場所が見つからない場合、接続テストでエラーとなります。エラーは次の状況で発生します。

- HCP 名が正しくない。

詳細については、Enterprise Vault のイベントログを確認してください。

図 4-5 ネットワークの場所が見つからない場合のエラーメッセージ



4.6 HCP へのアーカイブまたはリコール処理が失敗した

Enterprise Vault の管理者から、HCP へのアーカイブまたはリコール処理が失敗したと連絡を受けた場合は、Enterprise Vault のイベントログを確認します。イベントログの [Symantec Enterprise Vault] にイベント ID 6287, 6882, または 28944 が出力されている場合は、システム管理コンソールの [Monitoring] ページの [System Events] タブに次のメッセージが表示されているか確認してください。

- Severity : Notice
- Event : Node shut down

- Event ID : 1003

Event ID は、対象のイベントメッセージをクリックすると表示されます。
表示されている場合は、お問い合わせ先まで連絡してください。

Enterprise Vault 連携時の HCP システムの 上限値

Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値を説明します。

- [A.1 上限値一覧](#)

A.1 上限値一覧

Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値は、システムの構成によって異なります。
Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値を次の表に示します。

表 A-1 Enterprise Vault 連携時の HCP システムの上限値

項目	上限値	備考
ノード数	4 または 8	固定値です。4 ノード構成の場合は 4、8 ノード構成の場合は 8 になります。
オブジェクト数	1,590,000×HCP ストレージ総容量 (TB)	推奨とする上限値です。
オブジェクトサイズ	100GB	推奨とする上限値です。
テナント数	49	HCP システム単体で作成できるテナントの上限値は 50 ですが、デフォルトテナントが製品出荷時に作成済みのため、ユーザが作成できるテナント数は 49 となります。 一つのテナントが一つの Enterprise Vault に対応します。
ネームスペース数	99	HCP システム単体で作成できるネームスペースの上限値は 100 ですが、デフォルトテナントが製品出荷時に作成済みのため、ユーザが作成できるネームスペース数は 99 となります。
テナント当たりの管理ユーザアカウント数	20	—
テナント当たりのデータアクセスアカウント数	80	—

(凡例)

— : なし



B

略語一覧

ここでは、このマニュアルで使用している略語を示します。

- B.1 このマニュアルで使用している略語

B.1 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルでは、次に示す略語を使用しています。

API	Application Program Interface
CIFS	Common Internet File System
DNS	Domain Name System
DPL	Data Protection Level
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
NTP	Network Time Protocol
REST	Representational State Transfer
SQL	Structured Query Language
UTF	UCS Transformation Format
WORM	Write Once, Read Many